



2024年6月5日

各 位

東京都中央区晴海一丁目 8 番 10 号
株 式 会 社 メ ン バ ー ズ
代 表 取 締 役 社 長 高 野 明 彦
(コード番号 : 2130 東証プライム市場)
問い合わせ先:常務執行役員 ビジネスプラットフォーム本部長 米澤 真弥
T E L : 0 3 - 5 1 4 4 - 0 6 6 0

**(訂正)「通期連結業績予想値と実績値との差異および
通期個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ」の一部訂正について**

2024年5月10日に発表いたしました「通期連結業績予想値と実績値との差異および通期個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ」に一部訂正すべき事項がございましたので、下記のとおり、お知らせいたします。

記

1. 訂正の理由

2024年5月10日発表の「2024年3月期 決算短信〔IFRS〕(連結)」の一部に誤りがあったため、「通期連結業績予想値と実績値との差異および通期個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ」においても当該箇所の訂正を行うものです。

「2024年3月期 決算短信〔IFRS〕(連結)」の訂正につきましては、本日発表の「(訂正・数値データ訂正)「2024年3月期決算短信〔IFRS〕(連結)」の一部訂正について」をご参照ください。

2. 訂正の内容(訂正箇所には下線を付しております。)

連結損益計算書において「その他の費用」と「金融費用」を、同額で訂正することに伴い、連結業績における「営業利益」の訂正が発生するものであります。

なお、営業利益以外への損益および通期個別業績への影響はございません。

I. 通期連結業績予想の実績値との差異について

1. 2024年3月期連結業績予想値と実績値との差異(2023年4月1日～2024年3月31日)

【訂正前】

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	20,000	200	190	130	130	9.81
今回発表実績値(B)	20,467	<u>46</u>	136	126	126	9.71
増減額(B-A)	467	<u>△153</u>	△53	△3	△3	
増減率(%)	2.3%	<u>△76.5%</u>	△28.1%	△2.7%	△2.7%	
(ご参考)前期実績 (2023年3月期通期)	17,662	1,441	1,399	1,009	1,009	76.18

【訂正後】

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	20,000	200	190	130	130	9.81
今回発表実績値(B)	20,467	<u>41</u>	136	126	126	9.71
増減額(B-A)	467	<u>△158</u>	△53	△3	△3	
増減率(%)	2.3%	<u>△79.1%</u>	△28.1%	△2.7%	△2.7%	
(ご参考)前期実績 (2023年3月期通期)	17,662	1,441	1,399	1,009	1,009	76.18

2. 差異の理由

【訂正前】

売上収益は前回発表予想を達成も、大型構築案件が多く付加価値売上高率が低下しました。専門カンパニーは前期比 43.5%増と大きく伸長したものの、主力の Web 運用部門の成長率の鈍化を補うに至らず、付加価値売上高(注 1)は前期比 13.8%増の 19,208 百万円となり、売上収益の成長率と比して伸ばし切ることができませんでした。デジタルクリエイター数は前期比 23.4%増と人的資本への大きな先行投資により稼働率が低下したことで、売上総利益率は21.0%と前期比 8.4ポイント減少しました。人的資本への投資に加えて、生成 AI 等のサービス開発、マーケティングへの投資も引き続き拡大させ、販売管理費は前期比 13.4%増となり、営業利益は通期で黒字転換したものの、前回発表予想を下回りました。

一方で、新卒採用中心の大きな先行投資による低稼働の課題は継続しながらも、第4四半期連結会計期間(1月～3月)の営業利益は 616 百万円、営業利益率 10.5%と、事業における基礎的な収益性は維持していると考えており、今後は新卒・中途採用を抑制し、既存社員の稼働率の改善に最注力することで、収益性の回復を図ってまいります。

【訂正後】

売上収益は前回発表予想を達成も、大型構築案件が多く付加価値売上高率が低下しました。専門カンパニーは前期比 43.5%増と大きく伸長したものの、主力の Web 運用部門の成長率の鈍化を補うに至らず、付加価値売上高(注 1)は前期比 13.8%増の 19,208 百万円となり、売上収益の成長率と比して伸ばし切ることができませんでした。デジタルクリエイター数は前期比 23.4%増と人的資本への大きな先行投資により稼働率が低下したことで、売上総利益率は21.0%と前期比 8.4ポイント減少しました。人的資本への投資に加えて、生成 AI 等のサービス開発、マーケティングへの投資も引き続き拡大させ、販売管理費は前期比 13.4%増となり、営業利益は通期で黒字転換したものの、前回発表予想を下回りました。

一方で、新卒採用中心の大きな先行投資による低稼働の課題は継続しながらも、第4四半期連結会計期間(1月～3月)の営業利益は 611 百万円、営業利益率 10.4%と、事業における基礎的な収益性は維持していると考えており、今後は新卒・中途採用を抑制し、既存社員の稼働率の改善に最注力することで、収益性の回復を図ってまいります。

以 上